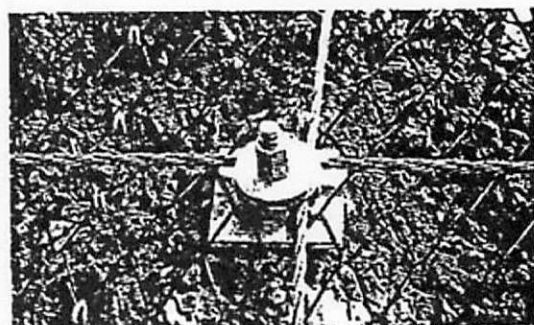
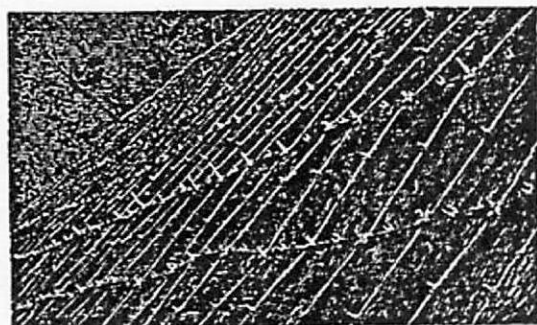
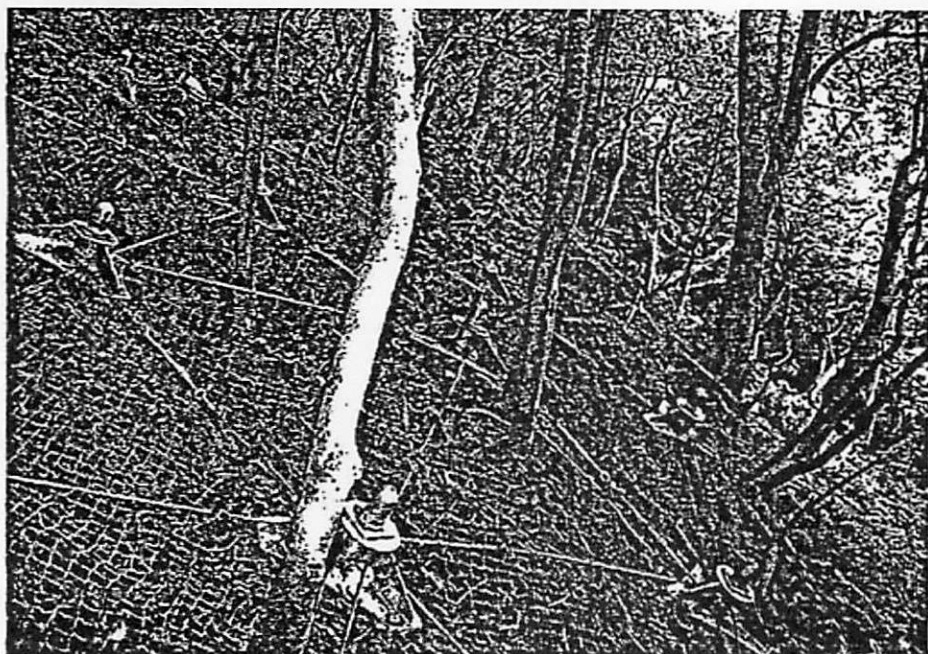


## 8.1.2 環境・景観に配慮した施工法など

著者	楠見 晴重
雑誌名	岩盤崩壊の考え方：現状と将来展望（CD-ROM）
発行年	2004
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/6046">http://hdl.handle.net/10112/6046</a>

### 8.1.2 環境, 景観に配慮した施工法など

- (1) 斜面やのり面の樹木を残し, ロックボルトと砕の代わりにワイヤロープを使用して斜面等を安定させる工法(写真 8.1.6, 8.1.7, 「景観・樹木を保全した斜面安定工法」)
- (2) 現地付近で発生の間伐材等を利用して周辺景観と調和させる施工法(写真 8.1.8)
- (3) 現地近傍の自然石などを利用して, 周辺の景観に調和させる施工法(写真 8.1.9)
- (4) プラスチック等で擬似岩盤を作成して, 周辺景観との調和を配慮する方法<sup>15)</sup>(写真 8.1.10)
- (5) コンクリートの打設面(表面の露出する部分)に自然石状の模様などを施し周辺景観との調和を考えた施工(写真 8.1.11)



### 写真 6

斜面やのり面の樹木を残し、ロックボルトと枠の代りにワイヤ  
のり面を安定させる工法の一例

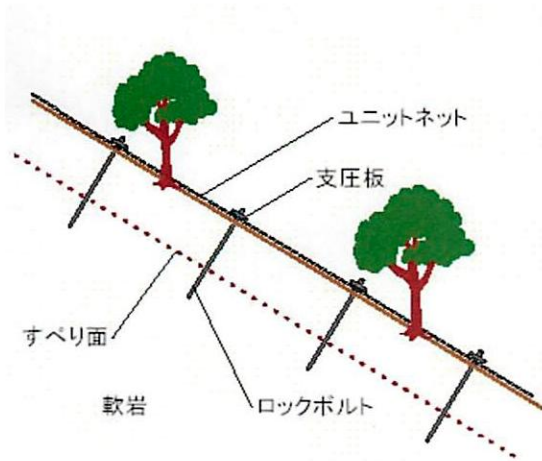
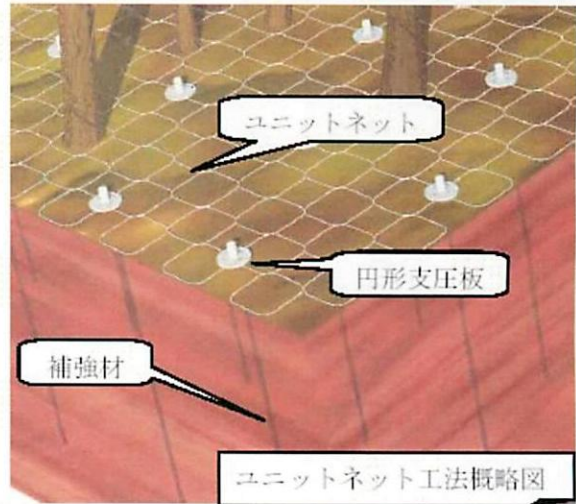


図-1 本工法概要図



ユニットネット工法概略図

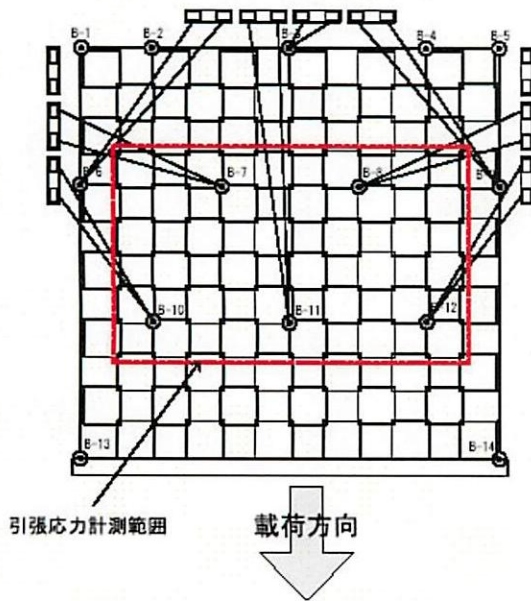


図-2 現場試験装置



兵庫県 平成 12 年度森林土木効率化等  
技術開発モデル事業  
六甲治山事業所

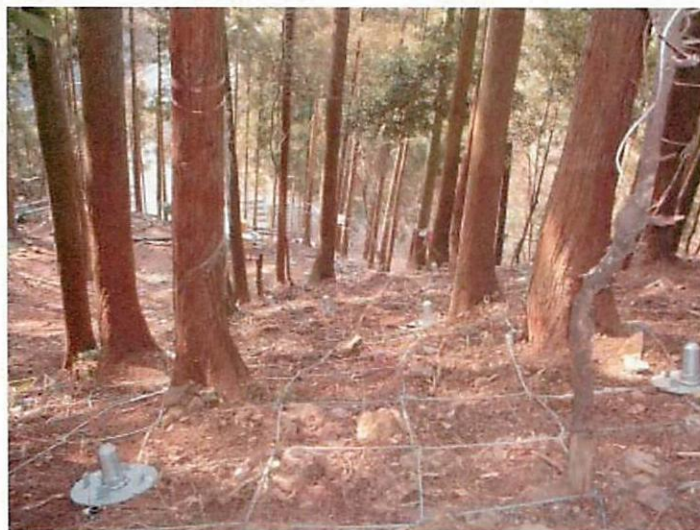


写真 7

斜面やのり面の樹木を残し環境や景観に配慮し、斜面やのり面を安定させる工法の一例。  
ロックボルトとワイヤロープ（棒の代り）を使用している。



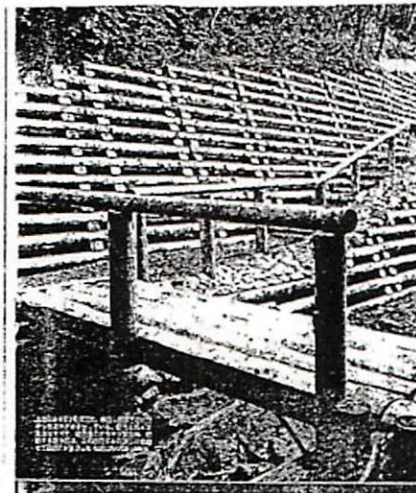


写真 8

景観対策では緑化工（植生工）がよく採用されるが、自然素材である木材利用（間伐材等の利用）も周辺の景観に調和させる目的で施行されている。それらの一例として編柵工と井桁擁壁状の構造物としての利用例を示す。



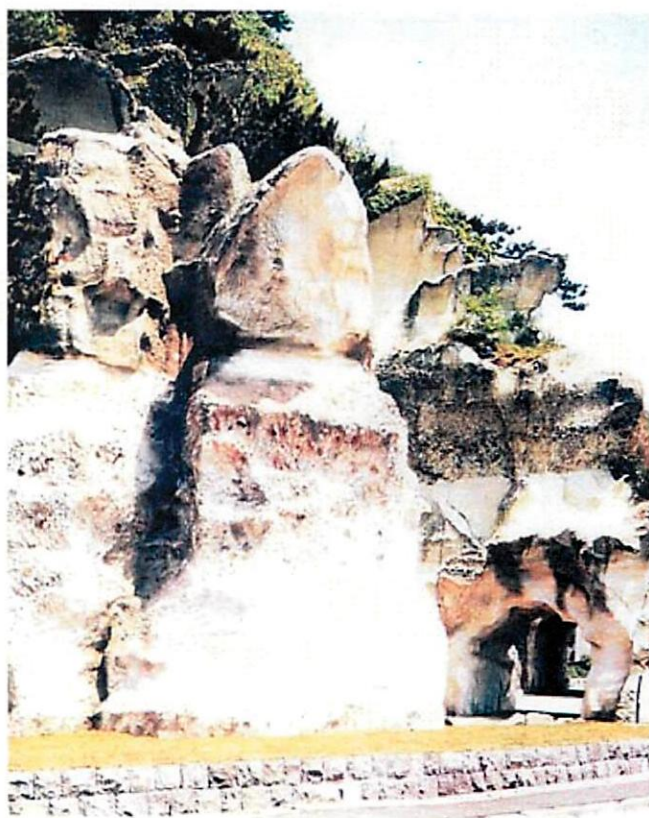
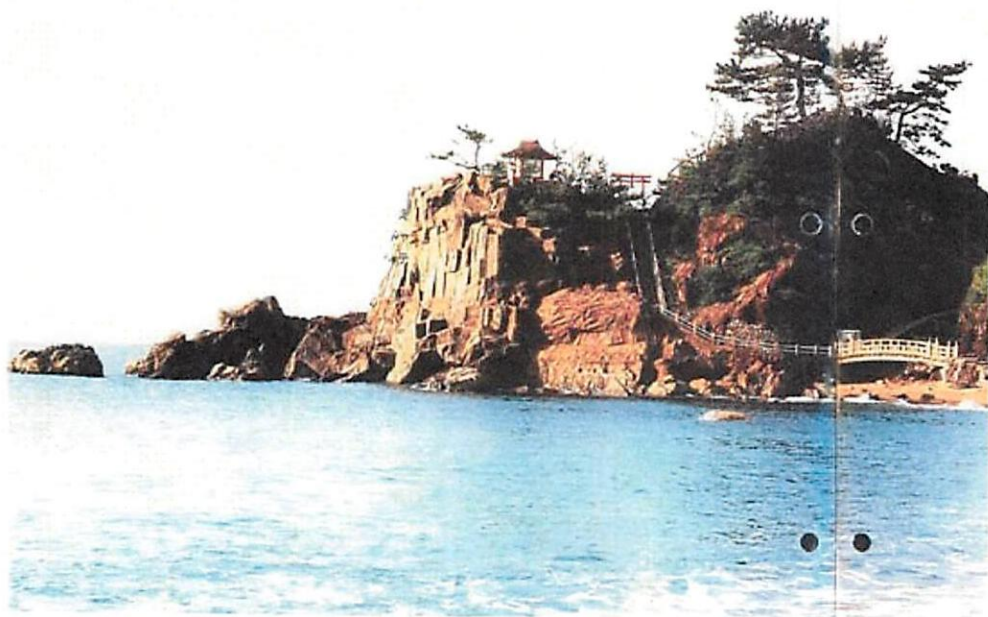


写真10  
景観対策として対策工施工前の旧景観を復旧するためにプラスチック等で施工前景観を  
保つことも行われている。またコンクリートも現地の岩盤に似せた色彩や表面の状態を  
造成する事もある。これらは特に風光明媚な箇所や国立公園などの景観を保存しなければ  
ならない場所で施工される。例えば、茨城県の岡倉天心で有名な五浦の六角堂周辺の  
岩盤補修や高知の坂本竜馬で有名な桂浜の補修例がある。

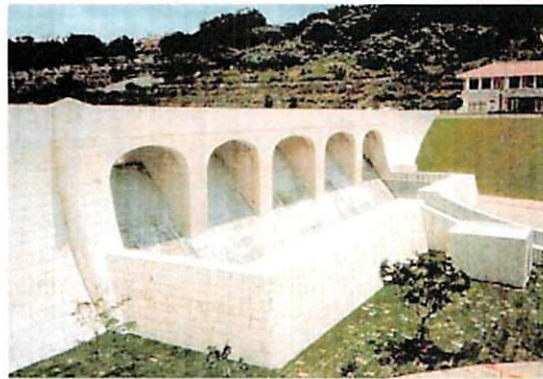


写真9  
景観に配慮する施工方法で現地発生の上塊や近隣の岩盤を利用して  
構造物を築造して崩落や崩壊等を防止した例。  
(この例は第三紀から第四紀の比較的柔らかい石灰岩の石材を利用した現場)



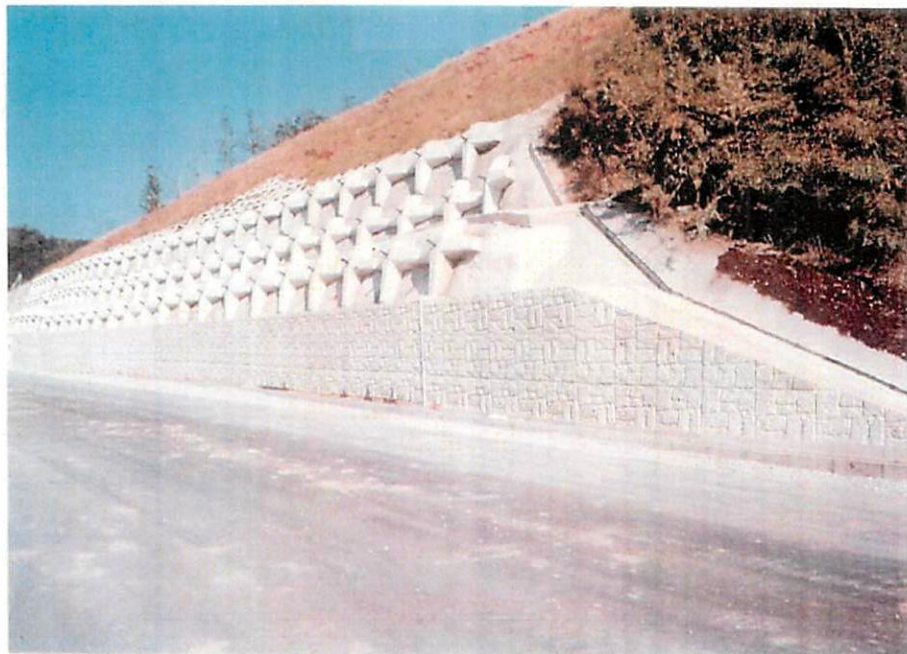
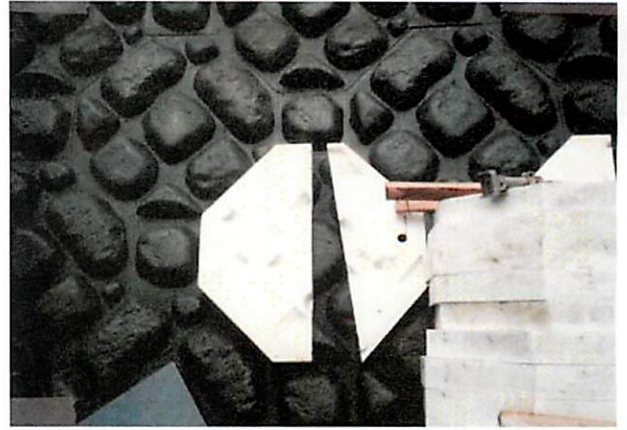
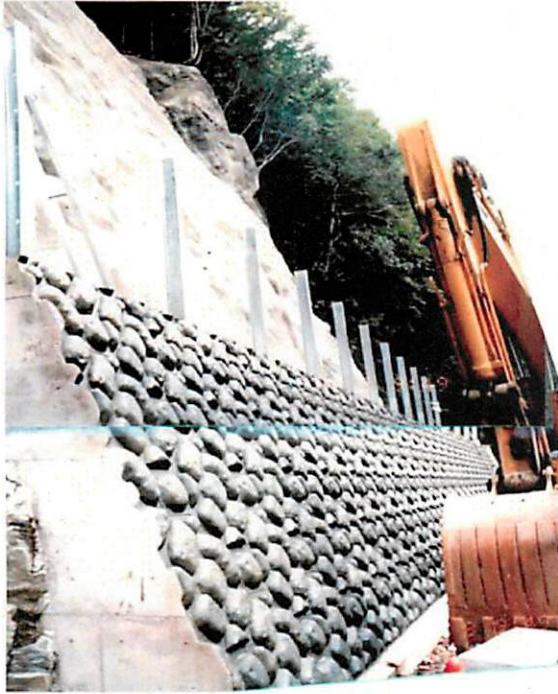


写真11  
景観に配慮するために、これまでコンクリート構造物の表面に自然石状の模様の付いた型枠を使用して周辺に調和した構造物を築造する方法もかなり多くなってきている。場合によっては自然石様に着色することもある。ここでは玉石状の積み擁壁に似せた擁壁と型枠と検地石状の模様のある擁壁(大型プレキャストのり枠の下部基礎部)例を示す。